# 実施状況調査報告書（スポーツ振興基金助成）

■活動概要

| | |
|---|---|
| 助成年度 | 令和 7 年度 |
| 助成団体 | 特定非営利活動法人日本視覚障害者柔道連盟 |
| 活動細目名 | 競技会開催（競技） |
| 活動名 | 第 40 回全日本視覚障害者柔道大会 |
| 助成金額 | 3,859,000 円 |

令和 7 年度スポーツ振興基金競技会開催（競技力向上活動）助成で、特定非営利活動法人日本視覚障害者柔道連盟が開催する「第 40 回全日本視覚障害者柔道大会」の実施状況について調査を実施しました。

本大会は視覚障害者による柔道の普及・発展と、視覚障害者柔道愛好家の親睦を図り、視覚障害者の人間形成に資することを目的としています。国内の競技者が一同に会して行われる大会であり、自己の実力をはかり知る上ではもっとも重要な大会です。

ベテランであるシニア部や無段者の部も設け、幅広い出場者を募っており、視覚障害者柔道愛好家の底辺拡充と、YouTube での配信を行うことで 2028 年ロサンゼルスパラリンピック大会に向けたファン獲得も目指しています。

■助成の意義

本大会は第 40 回という記念大会となったため、大会運営の充実に加えて、解説付きの YouTube 配信を聞きながら観戦できるようにしたそうです。これにより観戦者の増加に繋げることができ、視覚障害者柔道の普及・振興、障害のある人のスポーツ参加機会の拡大につなげることができたとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

大会のお知らせをホームページに掲載し周知を図るとともに、SNS などを利用して集客を行ったとのことです。また、東京都で開催されたデフリンピックの影響もあり、本大会の観戦についても電話での問い合わせが増加したそうです。電話では、本大会は無料で観戦できることの案内に加えて、競技を始めてみたい方には、視覚障害者柔道についても直接説明ができたとのことです。

■その他

例年、本大会はほぼ毎年講道館において実施されますが、視覚に障害のある選手に対して、人通りや交通量の多い駅から会場までの導線確保が課題になっていたそうです。そこで、今年度は選手からの要望もあったため、従来の運営スタッフに加えボランティアスタッフを増員し、最寄り駅から講道館への道案内および会場内での案内等を担ったそうです。

また、地震等の災害が発生した場合の避難経路について事前に資料を作成し、当日の配布物の

中に同封及び掲示を行い、会場に１台 AED を設置するとともにドクターが２名常駐して非常事態に備えていたそうです。

視覚障害者柔道に興味があるという問合せが多く来るようになったことから、公益財団法人全日本柔道連盟が作成している道場ナビ等で、問い合わせがあった方の近隣の道場をご紹介することもあるそうです。健康目的、仲間づくりに限らず、障害のある方のスポーツ参加機会の拡大および共生社会の実現を目指し、更には、パラリンピックを目指す選手と幅広い年齢層と選手層に向けた取り組みを実施しているとのことです。

■所感

視覚障害者柔道は組み手の状態から始めるため、始まりと同時に技をかけることができます。技と防御が試合開始と同時に繰り広げられるため、観戦者も引き込まれ、目が離せません。互角の競技力をもつ選手同士の試合においては、延長戦となり 20 分にも及ぶ対戦となり、観客の応援にも熱がこもりました。試合の特徴としては、両手が離れた時は試合の中断、場外に近づいた時は主審が「場外」等、静寂の中で主審のコールが試合会場に響き渡り、また技が決まると拍手と声援が道場に沸き上がっていました。

本大会を通じて、今後、日本視覚障害者柔道連盟が掲げている目標である、柔道を通じた視覚に障害をもつ方の社会参加及び競技力向上の取り組みについて推進されると共に、大会を観戦した方からも自他共栄の精神が広がっていくことを期待致します。

（令和７年 11 月 30 日往査）

（写真）第 40 回全日本視覚障害者柔道大会の様子



